

飯泉先生との思いで

末 廣 彬 齊

飯泉先生は大学の先生としては、ちょっと珍しいくらい熱心に学生の面倒を見てくれる先生だと感じます。その先生の熱心さに自分も何度も助けられました。大学というのは高校の時に比べ自由です。講義をいくつ受講するのも自由、また良くない事ですが、サボるのも自由です。その反面誰にも叱られることが無いため、サボリグセがつくと、ずるずると大学生生活に対するやる気が無くなってしまふことがあります。自分も高校生気分が抜けきらない一年生の頃はそうなりかけていました。当時の自分は講義をサボりがちで、飯泉先生の講義のテストも散々な出来でした。しかし、そのころの自分はまた来年やればいいやと特に気にも掛けていませんでした。ところがそのテストの結果のことで飯泉先生に呼び出しを受けました。当時の自分としては意外でした、それは、これまで受けた講義の中でテストの出来について呼び出されたことが無かったからです。その時、飯泉先生に言われたことは今でも覚えています。大声をあげて怒鳴られるという訳ではありませんが、自分の講義の出席状況、レポートの出来など一つ一つ指摘され、ちゃんと大学で勉強する気があるのか、何のために大学に来てるんだと言われました。このようなことを大学生にもなって先生に諭されるというのは、情けないことですが、自堕落になっていた自分を見つめ直すきっかけとなりました。また、本来ならわざわざ生徒を呼び出す必要はないのに、学生のことを考え指導して下さったことは感激でした。また、その後もゼミ発表のための英訳を休日割いて見ていただいたり、自分の卒論のフィールドまで見に来ていただいたり、何度も飯泉先生には御迷惑をおかけしました、しかし、その度に熱心に指導していただいたこと心から感謝いたします。

島根大学を退官されてからも、どうか島根大学と私たち後進の未来を見守っていただければありがたいと思います。また、どうかお体にお気をつけて下さい。飯泉先生の新しい門出に心からの感謝とお慶びを申し上げます。